「子どもの日」に相応しい知人の実践ＤＶＤを目にして

今日は「子どもの日」。
報道によれば、総人口に占める子どもの割合は１３．５％で２７年連続減る」現状とか。
ふと、子どもとは何才までを云うのかと気になったが、１５才以下を子どもと云うよう。
確かに、中学校卒業（１５才）後、社会に出て働く人もいるのだから、そうした人達を「子ども」とは呼べないだろうなあ。

それはさておき、「子どもの日」に相応しいＤＶＤ２枚組が知人から届いた。
知人は大都会で３ケ所の保育所と２ケ所の放課後ケアを運営している園長である。

毎月保育園便りを送付いただいている。
保育所の保護者会というと母親が中心となりがちだが、あえて「父親グループ」も作り、「子育ては親と共に！」であることを積極的に実践活動していることに注目し、その活動に感心している。

この保育所等のＨＰは「雑学ＢＮ」の「リンク関係（Ｉ）」にもリンク・掲載しているが、単なる保育所紹介に留まらない内容的にも充実したＨＰで、これも感心して時々覗いている。

園長としての長年の労苦が報われているのか、その実践はマスコミや保育専門雑誌で取り上げられることも度々のようで、保育士募集には全国から応募してくるようだし、また、成人した卒園生から「この保育所で働きたい！」と就職した保育士も数人いるとか。

さて、送付いただいたＤＶＤは、プロに頼んで作成した今年３月の保育所の卒園式の様子を収録したもので、毎年こうしたＤＶＤを作成し、卒園生にプレゼントしているとか。

ＤＶＤを送付いただいたのは今年が初めてだが、視聴して驚いた！
卒園する子ども一人一人の詩を園長が創作しセミプロに曲を付けて貰い、それを卒園する幼児が一人ずつ前に出て、他の園生や両親たちと一緒に自分の詩を歌ってる。
その子の卒園証書にはその子の詩を園長自ら書き記してる。
自分の詩が記された卒業証書と自分達が歌う姿のこのＤＶＤは、子どもの一生の宝ものになるだろうなあ。

一方、各市町村の財政難から公立保育所を民間移譲の話が出ており、民間移譲すると新卒保育士が多くなりがちで「保育の質の低下を招く」と、地方によっては反対運動も起こっているよう。
知人の保育方針、保育所運営の実践を知る限りそれは危惧であり、要は、公私立を問わず、園長の資質とリーダーシップにあるような気がする。

阿部幸泰　　（2008 年 5 月 5 日　記）